NEWS RIKKYO

※インターネットでも見ることができます。立教大学ホームページ　http : // www. rikkyo. ac. jp /

ニューズ立教　No.203　1999年10月５日　立教大学広報課発行　〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1　03（3985）2202

立教学院創立125周年記念特集号

―タイムカプセルにこめられた105年前の想いとは？―

出現した105年前のタイムカプセル

今夏（1999年８月５日）、12号館の解体作業に伴い、礎石部分から105年前に収めたタイムカプセルが出現しました。

立教学院は、1874年（明治７）年、築地に創設されました。1894（明治27）年６月20日、東京に発生した大地震により校舎が倒壊。同年11月、六角塔を持つ新校舎建築の定礎式にあたり、礎石部分に、学校の沿革、学生の作品、当日の新聞、貨幣などを収めたタイムカプセルを埋め込み、上部をセメントで封じたといわれます。

やがて発足した立教大学が、1918（大正７）年、池袋に移転したことにより、築地の校舎は立教中学により用いられていました。ところが1923（大正12）年９月１日、今度は関東大震災が起こり、築地校舎は焼失。ただタイムカプセルを収めた礎石だけは残りました。

約２年後の1925（大正14）年11月、立教中学も池袋に移転となりました。新校舎の建設にあたり、その礎石と重ねて、築地校舎の礎石も運ばれて下部に据えられました。新校舎は、その後12号館と名づけられ、主として１階は中学の工作室、２、３階は大学の研究室として長く使用されてきました。

この間、タイムカプセルのことは記録にありながら、これを知る人は１、２を数えるのみとなりました。また、わずかに記録しているものも、あの関東大震災の猛火に遇っているため、かりにカプセルは残ったとしても、資料の存在には懐疑的でした。

慎重な作業の結果、築地時代の礎石より、みずから姿を現すようなかたちで金属製のカプセルが出現したのです。関係者の驚きは大きいものでした。くりぬかれた礎石の中に、厚いセメントの蓋でおおわれ、約30×18×25センチの容器が密封され、105年の間眠っていたのです。あわせて1925年の新校舎の礎石からも小型のカプセルが発見されました。

105年前の築地校舎のカプセルの中には、記録に残されていた品をはじめ、聖書、生徒の氏名、成績表など、全部で45点の資料が収められていました。11月22日付の『読売新聞』があったことにより、定礎式の日も確認されています。74年前の方からは11月18日付の『東京日日新聞』や職員録など16点が出てきました。

今回のタイムカプセルの出現で、なによりもの驚きは、早くも105年前の時代に、明確に意識してタイムカプセルが作られていたことであります。その結果、厳封された容器のなかで、あの関東大震災にも耐え、ほとんど105年前と変わらない姿を無事にみせたのでした。

内容は、大別して３種に分かれます。第一は立教関係、第二はキリスト教関係・聖公会関係、第三は時事関係です。

立教関係では、「納函紀念録」と題された学生12名の作品集があります。墨痕鮮やかな直筆で記されたもので、文字通り出色です。およそ20歳前後の大学生にあたる青年たちの作品は、日清戦争最中の影響を免れがたいとはいえ、いずれも、自分の思想と高い志を表し、新しい日本を形成しようとする息吹が感じられます。

タイムカプセルにより、105年前の青年たちが伝えようとしたものは何でしょうか。他の立教学院、キリスト教・聖公会におよぶ多数の貴重な資料とともに、その精神と物品との双方にわたる継承と展開とが、現代のわれわれに今課せられています。

（コミュニティ福祉学部教授　鈴木範久）

主な記事から

お知らせ……………………２
講演会・もよおしもの……３
125周年記念特集…………４・５
学園祭へ行ってみよう……６
こころの成長・クラブ出番ですヨ…７
課外活動奨励金・他………８

変わらない理念が立教を変えていく。
RIKKYO UNIVERSITY